かわら版いわしろ

「最優秀賞をいただいた羽山りんご。全国にご縁が広がっています」～斎藤りんご園～

日本有機農業普及協会主催のオーガニック・エコフェスタ栄養価コンテストりんご部門において昨年から2年連続で最優秀賞に輝いた斎藤りんご園。

２代目社長の齋藤政広さんに美味しいりんごづくりの秘訣を、後半は副社長の政貴さんに後を継ぐことへの思いや活動内容についてうかがいました。

Q 始めたきっかけは？

私が小学生の頃、りんごは風邪をひいた時しか食べられない高級品でした。当時、旭地区では葉タバコや養蚕が盛んでしたが、その代わりになるものを探していた父や近隣の農家の人々がりんごに着目し、りんご栽培にチャレンジしました。しかし、りんごは収穫までに７年ほどかかり、その間も肥料や農薬は必要です。当然、やめていく農家も多く、結局、残ったのは４軒に。震災をはじめ様々な逆風にさらされながらも続けてこられたのは、りんご農家同士の連携や協力者の存在が大きかったからです。

Q ２代目としての苦心点は？

当初は「羽山は土が悪くて美味しいりんごは採れない」と言われていました。それを克服したいと色々な農法を試みた末にたどりついた土壌の改良とバイオファーム健康農法に取り組んでいます。

また、高機能選果機を導入することにより、品質の安定した美味しいりんごを皆様にお届けできるようになりました。

▲齋藤家の家族、愛犬ジェーンと一緒に

Q ３代目としての抱負は？

５年前に母の死をきっかけに、Ｕターンを決意しましたが、東京ではＩＴ関係の仕事についていました。全国からりんごが集まる東京でさえ実家の味を超える美味しいりんごに出会うことはできませんでした。それなら美味しいりんごを自分でつくればいいと考え、修行中ですが、りんご農家の跡を継ぐことにしました。

帰郷後は元の仕事で培ったＩＴ技術や知識を活かしてホームページの作成にも力を入れています。また、ドローンを飛ばしてりんご畑を上空から撮影して紹介するなど、羽山りんごの広報活動に努めています。

私たちは、農家でありながら、個人商店でもあり、色々なお客さまと出会うことができます。全国にご縁が広がっていて、皆さんに喜んでいただけることをありがたく感じています。

▲重さ25キロの大型ドローン。液体肥料の散布などの可能性を研究中

羽山りんごの特長と美味しい食べ方は？

★無袋栽培＋樹上完熟！

昼夜の寒暖差が激しく日当たりがよい羽山の傾斜地では、つやが良くひきしまったりんごが育ちます。羽山りんごの特徴は、袋をかぶせずに育てる無袋栽培です。太陽の光をたっぷり当てることで糖度の高い美味しいりんごになり、さらに枝につけたまま完熟させてから収穫するため、みずみずしい香りを保ちます。

★おすすめは皮ごと食べること！

りんごは皮と実の間が最も栄養価が高く、旨味が凝縮されています。りんごを軽く洗って輪切りにすると、シャキシャキとした食感が楽しめます。

◀現在栽培しているりんごは、12種類ほど。１本の木から、およそ２００個の収穫が理想

I Love Iwashiro ④
～天狗塚公園～

岩代を愛する人がすすめる地元の魅力あるスポットを紹介します。４回目は、初森地区、行政委員の大内和長さんです。

「天狗塚という名前の由来は、昔話にもなっています。この辺りは昔から羽山の黒ミカゲ石と並び、初森の白ミカゲ石として知られる名石の産地でした。私が小学生の頃には、遠足のコースになっていて、みんなで遊んだ楽しい思い出もあります。

今から40年ほど前に、天狗塚等の保護を目的として地元の有志が集まり、「三志会」が結成されました。その後、天狗塚は、「天狗塚公園」として駐車場等が整備され、初森地区の皆さんから寄られた植木等の植栽も行われました。人口減少と高齢化等により三志会のメンバーも減少しましたが、現在も年１回の美化活動を実施しています。

晴れた日には天狗塚から安達太良山の稜線がくっきりと見え、夕日の撮影スポットとしても知られています。風光明媚な場所なので、地元のみんなでこの場所を守っていきたいです。来年以降、東屋の整備などにも取り組んでいけたらと思っています。

▲昔話にちなんだ天狗の像がシンボル。遠くに安達太良山が眺められる絶景スポット

◇紹介してくれた方◇
～大内和長さん～
初森地区行政委員

▲小高い丘の上には大きな岩や東屋がある

さくらの郷
イルミネーションはじまりました

いわしろに感謝と希望の光を！

さくらの郷のイルミネーションがはじまりました。ツリーにはいわしろさくらこども園、小浜保育所の子どもたちの作品が飾られています。２０日（日）にはイルミネーションのツリー飾りや輪飾りを作成するワークショップが開催されました。

さくらの郷で活動中の地域おこし協力隊内山祐樹さんの企画。「岩代の皆さんへの感謝を込めて、未来への希望の光を届けたいです」と、抱負を語っています。作品の展示やイルミネーションの点灯は１月３１日まで。ぜひ、ご覧ください。

◀ライトアップは16時から21時まで。ワークショップでは、クリスマスリース作りも実施

「田舎の未来プロデューサー」事業
～岩代地域に若者が結集～

「田舎の未来プロデューサー」は、若者による地域活性化を目的とした体験事業です。コロナウイルスの影響で、11月に第１回会議をオンラインで開催。第２回は現地で学んでもらおうと、今月5・6日に開催し、大学生・高校生のべ32名の参加がありました。

参加者は、道の駅さくらの郷で道の駅の仕事を学び、またエム牧場の吉田社長から「地域ビジネス」について学ぶ時間も設けられました。参加者は４班に分かれ、特産品やさくらの郷の加工品を題材にして発表することに。Ａ班は「羽山りんご・りんごプリン」、Ｂ班は「小麦＆ピザ＆たらの芽」、Ｃ班は「れんこん・じゃがいも、ごんぼコロッケ」、Ｄ班は「いわしろ高原産そば」と色々でしたが、時間を超過しても真剣に取り組む姿に主催者側も喜びを感じる時間となりました。

今後も、１・２月に会議を行い、さくらの郷への提案を行う予定です。